

## 放射線による障害 —急性障害—

放射線は、人体の奥深くまで入り込み、細胞や骨髄などの造血機能を破壊し、肺や肝臓等の内臓を侵すなどの深刻な障害を引き起こしました。爆発後1分以内に放射された初期放射線によって爆心地から1,000 m以内にいた人は、致命的な影響を受け、その多くは数日のうちに死亡しました。また、外傷が全くなく無傷と思われた人が、被爆後月日が経過して発病し、死亡した例も多くありました。さらに、救護活動のため入市した人の中には、残留放射線の影響で、直接被爆した人と同じように発病したり、死亡したりする人も多くいました。

放射線による急性障害の特徴的症狀には、細胞や造血機能の破壊と臓器の障害、免疫機能の低下、脱毛などの症状がありました。



### 死直前の兵士

21歳の兵士は、爆心地から1km以内の木造家屋内で被爆し、背中・右腹などを負傷し、治療を受けました。被爆約2週間後から、脱毛、歯茎からの出血、紫色の皮下出血斑、発熱といった症状が次々と現れ、9月3日に死亡しました。

広島  
1945年9月3日  
広島第一陸軍病院宇品分院  
木村権一氏撮影  
広島平和記念資料館提供



### 頭部が脱毛した子ども

急性障害により、頭部の脱毛が現れました。脱毛により周りからかわれたり、差別されたりして、心に傷を負った子どもも多くいました。また、その後発生した他の急性障害あるいは後障害により多くの子どもが死亡しました。

長崎  
九州大学病院  
長崎原爆資料館提供